

ドイツの大学における外国語教育のレベル設定と評価基準

成田 節

1. はじめに
2. 欧州共通参照枠 (CEFR) とユニットセルト (UNIcert)
3. ドイツの大学における外国語教育 — 事例報告
 - 3.1. エアランゲン大学言語教育センター
 - 3.1.1. 開設講座
 - 3.1.2. レベル分けテストに関する問題
 - 3.2. ハノーファー大学専門語教育センター
 - 3.2.1. 開設講座
 - 3.2.2. レベル分けテスト開発状況
 - 3.3. フランクフルト大学国際学業センター、継続教育センター
4. レベル分けテストにおける C-Test の利用
5. おわりに

1. はじめに

このレポートは、ドイツの大学の言語教育センターにおける外国語教育を例に、レベル設定と評価基準の方法についてまとめたものである。各大学の外国語講座については研究補助者の協力を得てインターネットで情報を収集・整理した。¹ その上で、2011年3月にエアランゲン大学とハノーファー大学の言語教育センターに調査に行き、情報を修正・補足した。

2. 欧州共通参照枠 (CEFR) とユニットセルト (UNIcert)

欧州言語共通参照枠 CEFR (ドイツ語では GER = Gemeinsamer Europäischer Referenzrahmen) はゲーテ・インスティトゥートをはじめとするドイツ語教育機関だけではなく、以下のハノーファー大学やフランクフルト大学の例などにも見られるように、大学における言語教育でも利用されているようである。「外国語としてのドイツ語」(DaF = Deutsch als Fremdsprache) の教材も、今ではほとんどの教科書の表紙に A1、A2、B1、B2 などのレベル表示が記載され、教材を選ぶ際の目安になっている。東京外国語大学の主専攻ドイツ語で1年目の後半から2年目の終わりまで使う教科書 "Mit Erfolg zum Zertifikat Deutsch, Übungsbuch" (Klett) の表紙にも「B1」のロゴが付いている。日本国内で出版されている教科書にも、最近では A1、A2 などのレベルに準拠して作られているものも出始めている。たとえばクラウディア・ハーマン／ヴィンチェンツォ・スパニョーロ／藤縄

¹ 本レポートで取り上げた3大学における言語教育センターのデータ収集および整理に際しては浜津大輔氏の協力を得た。

康弘「シチュエーション. ユミと一緒にドイツ語を学ぼう！」(朝日出版)も「語彙や文法の面でもヨーロッパ共通参照枠 A1 レベルに準拠している」ことが記されている。

しかし、ドイツではこの CEFR の他に、大学教育に特化した外国語能力の到達度測定基準として UNICert (Das Fremdsprachenzertifikat für den Hochschulbereich「大学教育のための外国語能力認定」) という基準もある。UNICert のホームページによれば、1992 年にドイツの主要大学間で締結された包括協定に基づき、各大学の言語教育センター(多くが Sprachenzentrum「言語センター」という名称の学部外組織)の研究グループにより運営されており、2012 年 1 月の時点でドイツ国外の 3 大学(スロバキアのブラティスラバ大学、オーストリアのクフシュタイン大学、フランスのアンジェ大学)を含む 54 大学が UNICert に参加しているとのことである。²(次頁の地図を参照)

ゲーリッシュ大島圭子「全学対象日本語授業と UNICert —初級日本語能力とレベル 1 対応への試案」³は、アウグスブルク大学言語教育センターにおける「全学対象日本語講座のカリキュラムを UNICert の基準に即して組むことを試みた」ものである。この論文および UNICert のホームページを参考にして UNICert の要点を以下に挙げる。

- 大学教育に特化し、大学教育に適した外国語能力の認定基準を設定する。
- ドイツの各大学の言語教育機関が発行する語学能力認定基準の統一を目指す。
- 複数の言語間での言語能力認定基準の比較・関連付けを可能にする。
- 原則として専門分野に関係なく要求される総合言語能力を認定するが、⁴言語教育センターの授業のうち、上級レベルでは特定の専門に合わせたコースも開講されている。
- 運営に関して、カリキュラム、試験、認定書発行などは、実施資格検定に合格した各大学に任せられている。⁵

UNICert と CEFR のレベル設定はおおよそ以下のような対応関係にある。

UNICert I	CEFR A1
	CEFR A2
	CEFR B1
UNICert II	CEFR B2
UNICert III	CEFR C1
UNICert IV	CEFR C2

² <http://www.unicert-online.org/de> (ドイツ語) および <http://www.unicert-online.org/en> (英語) 参照。

³ http://www.japanisch-als-fremdsprache.de/jaf/002/JAF_002_6.pdf

⁴ エアランゲン大学言語教育センターのウェブサイトにある説明では、I から IV のどのレベルについても *institutionsübergreifend* (学部・学科にまたがる) という表現が使われている。

⁵ ゲーリッシュ大島 (上掲文献)

すなわち、CEFR の A1 から B1 までを一括して、あるいは A レベルはクリアしていることを前提として B1 までを UNICert のレベル I としている。これは、UNICert が大学教育レベルでの外国語能力を認定する基準であるということ、また、ドイツの大学入学に必要な語学能力試験の一つである TestDaF が B2 から C1 レベルに設定されていることを考えればごく自然なことだと言えよう。



地図の出典：<http://www.unicert-online.org/de/mitglieder>

3. ドイツの大学における外国語教育 — 事例報告

3.1. エアランゲン大学言語教育センター

エアランゲン大学は正式には Friedrich-Alexander-Universität Erlangen-Nürnberg (FAU) という名称である。1743年にバイロイト辺境伯フリードリッヒにより創立され、1769年 アンスバッハ・バイロイト辺境伯アレクサンダーの名を付けくわえて現在の名称になっている。バイエルン州ではミュンヘン大学につぐ規模の総合大学で、5学部を擁し、大学のウェブサイトによれば教授ポストが629、学生数が約28,700人である。

言語教育センター (Sprachenzentrum) は、以前は人文学部 (Philosophische Fakultät) の一組織だったが、2007年以來 FAU の全学組織となっている。このセンターでは、人文系の BA コースおよび MA コースを充実させる語学 (および各国事情) の授業を提供している。提供している言語の数は23に達する。ただし、学期によっては開講していない言語もある。今後は専門分野 (特に法律、経済、工学、医学) の言語教育への対応も検討していくとのことである。

3.1.1. 開設講座

A. 外国語としてのドイツ語 (Deutsch als Fremdsprache)

- 講座のレベルは言語教育センター独自の設定だが、それぞれのレベルと CEFR 基準の関連性は以下のように示されている。外国語としてのドイツ語は UNICert は利用していない。

言語教育センターの基準		CEFR
基礎レベル	Grundstufe I II III IV	A1, A2 に相当
中級レベル	Mittelstufe I II	B1, B2 に相当
上級レベル	Oberstufe	C1, C2 に相当

- ほぼ毎期、各レベルごとに講座が開かれている。
- 評価は80%以上の出席と期末テストなどによってなされる。
- 授業開始前にプレースメントテストがある。(これについては後述)

ただし DSH (Deutsche Sprachprüfung für den Hochschulzugang 「大学入学のためのドイツ語語学試験」) や TestDaF (Test Deutsch als Fremdsprache 「外国語としてのドイツ語テスト」) で一定の成績を持っている者は免除される。

B. ほかの言語

- UNICert 基準テストは一部言語のみで受験可能。⁶
- 英仏伊西は授業開始前にプレースメントテストがある。

⁶ ゲーリッシュ大島の上掲論文によれば、エアランゲン大学はバイエルン州における UNICert 制度の推進役を担っているとのことである。

[英語]

- 英語の開設講座は UNICert の II と III のみである。III では経済学や化学などの専門に特化した講座も開かれているもあり。
- 英語の UNICert I 以下のレベルは"Refresher Course" (UNICert II 準備講座) もしくは Volkshochschule (市民大学) で学ぶことが勧められている。
- ドイツ語以外の外国語の成績評価は筆記試験 (Klausur) による。希望に応じて UNICert 試験もあり。この場合筆記試験に加え口述試験を実施する。

[フランス語、スペイン語、ポルトガル語]

- UNICert の III と IV では、医学や法学などの専門講座もある。

以下に、エアランゲン大学言語教育センターで開設している講座の一覧を示す。

凡例：● (UNICert 基準)、△ (独自基準だが、CEFR との関連あり。)

CEFR	A1	A2	B1	B2	C1	C2	その他
UNICert	I			II	III	IV	
ドイツ語	△	△	△	△	△	△	-
英語 ※1	-			●	●	-	-
フランス語	入門講座あり		●	●	●	●	-
スペイン語			●	●	●	●	-
ポルトガル/ブラジル語			●	●	●	●	-
イタリア語			●	●	●	●	-
現代ギリシア語			●	●	●	-	-
ポーランド語			●	●	-	-	-
ロシア語			●	●	-	-	-
スウェーデン語			●	-	-	-	-
アラビア語			●	-	-	-	-
中国語			●	-	-	-	-
オランダ語			●	-	-	-	-
チェコ語			●	-	-	-	-
カタロニア語	開講講座なし						
ルーマニア語	独自基準。入門講座のみ開講。UNICert 試験設定なし。						
フィンランド語	独自基準。入門～初級講座開講。UNICert 試験設定なし。						
朝鮮語	独自基準。入門講座のみ開講。UNICert 試験設定なし。						
セルビア/クロアチア語	独自基準。入門～初級講座開講。UNICert 試験設定なし。						

ルウエー語	独自基準。入門～初級講座開講。UNICert 試験設定なし。	
スワヒリ語	独自基準。入門～初級講座開講。UNICert 試験設定なし。	
ウクライナ語	独自基準。入門講座のみ開講。UNICert 試験設定なし。	
ハンガリー語	独自基準。入門講座のみ開講。UNICert 試験設定なし。	
日本語	人文学部の日本学専攻で開講。独自基準。	

3.1.2. レベル分けテストに関する問題

以下、「外国語としてのドイツ語」を例にして、コース開始にあたってのプレースメントテストにおける問題点を一つごく手短かに紹介する。「外国語としてのドイツ語」セクション主任のフランク・ミールケ氏によると、プレースメントテストはおおよそ CEFR に依拠して、主として C-Test を用いて行われるとのことである。C-Test とは、短めの文章を使い、単語の途中からというのも含めて、テキストに一定間隔で空所を設け、語彙的知識、文法的知識および談話理解力などを総動員し、空所を補って元の文章を復元するテストである。

その際、学生の自己評価とテスト結果の不一致が見られることは珍しくないが、中には C-Test の正当性への疑問も含むクレームを付けて粘る学生もいるとのことである。

3.2. ハノーファー大学専門語教育センター

ハノーファー大学は 1831 年にハノーファー王国の高等実業学校として設立され、その後徐々に発展し、哲学者・数学者の Gottfried Wilhelm Leibniz 生誕 360 年に当たる 2006 年に、この偉大な学者にちなんで Leibniz Universität Hannover と改称した。現在は 9 学部を擁する総合大学であり、ウェブサイトによれば教授ポスト約 300、学生数約 21,000 である。

1989 に設置された言語教育センターは正式名称を Fachsprachenzentrum (FSZ 専門語教育センター) という。この名称からも伺えるように、本来は専門科目に必要な外国語能力を養成するためのセンターだったと思われるが、以下の一覧表から見て取れるように、ドイツ語、英語、フランス語、スペイン語、スウェーデン語以外では B1 以上のレベルが設定されていない。したがって、必ずしも名称の通り大学の専門課程に対応した外国語能力の養成を目指すばかりではないようである。

スタッフ約 70 名で、17 言語を開講し、常時約 1000 名の学生がそれぞれのコースを受講しているとのことである。ドイツ語担当の Sigrun Schroth-Wiechert 氏によれば、センターのドイツ語学習者には DSH の準備コースの受講者が多いが、DSH は外国人がドイツの大学に正式に登録するために科せられる試験 — つまり入学以前の試験であるので、専門教育に直結するものではない。そのような事情から、予算についての大学当局との折衝では、DSH コースの開設は専門語教育センターの本来の仕事ではないのではないかと指摘され、説明に苦労しているとのことであった。

3.2.1. 開設講座

A. 外国語としてのドイツ語

- 文法や音声など専門分野に特化しない（fachübergreifend）コースから、経済、技術分野に特化したコースまで多様に開講されている。ドイツ語手話コースもある。
- CEFR グレードは各講座の難易度目安表示として使われている。
- 成績評価の材料は出席率やテストなどと記載されており多様だが、CEFR に準じた記述は特に見当たらない。

B. その他の言語

- 英語、フランス語、スペイン語は、ほぼドイツ語と同様だが、プレースメントテストの有無は講座によって異なる。

凡例：○（CEFR 基準）

CEFR	A1	A2	B1	B2	C1	C2	その他
ドイツ語	○	-	○	○	○	-	○
英語	-	○	○	○	○	-	○
フランス語	○	○	○	-	-	-	○
スペイン語	○	○	○	-	-	-	○
ポーランド語	○	○	-	-	-	-	○
アラビア語	○	-	-	-	-	-	-
聖書ヘブライ語	○	-	-	-	-	-	-
中国語	○	○	-	-	-	-	-
イタリア語	○	○	-	-	-	-	○
日本語	○	○	-	-	-	-	-
ポルトガル語	○	○	-	-	-	-	○
ロシア語	○	○	-	-	-	-	○
スウェーデン語	○	○	○	-	-	-	○
トルコ語	○	○	-	-	-	-	○
古代ギリシア語	独自基準（Ⅰ、Ⅱなど）						
ラテン語	独自基準（B1、B2 だけ CEFR 枠での設定がある）						

3.2.2. レベル分けテスト開発状況

外国語としてのドイツ語のプレースメントテストについては、2011年3月の時点では、Matthias Perner氏を中心に開発中とのことであった。目的はオンラインで管理可能なプレースメントテストを作成し、テスト結果を蓄えて有効性の分析も可能にするということである。

計6名のメンバーからなるワーキンググループで、需要分析に基づいてテストの実施案を作成する。具体的には、話しことば、書き言葉、報道記事、散文作品などさまざまなジャンルから17のサンプルテキストを選択し、一語ごとのシラブル数、一文ごとの語数、異なり語数、読みやすさ、品詞分布などの観点からテキストを分析する。それに基づいてテスト用モデルテキストを作成する。このテキストは約100語からなり、読みやすさは「中程度」、品詞分布、語の長さ、文の長さも偏らないように考慮したものである。

そのテキストを用い、試作版C-Testを2部作成して試用する。まず母語話者に対して試用し、達成レベルの基準を設定する。次にDSH受験者(約100名)に対して試用し、母語話者グループの結果と照らし合わせて、テストの有効性を分析・評価するとのことである。

2011年3月の時点では、「読みやすさ」の調整やレイアウトの工夫(たとえば補う文字数分だけ下線を付ける)など、改善課題が出てきているとのことであった。

3.3. フランクフルト大学国際学業センター、継続教育センター

フランクフルト大学の以下の情報はウェブサイトから得て整理したものである。

A. 外国語としてのドイツ語

外国語としてのドイツ語は「国際学業センター」(Internationales Studienzentrum)で開講されている。このセンターは留学生に対するドイツ語を含む補足的な教育を行う組織である。ドイツ語の評価基準にCEFRは適用していないようである。

① 専門分野に特化しないコース fachübergreifende Kurse

- 大学で必要となる文法、語彙、発音トレーニングから、発表、作文トレーニングまで多様なコースあり。
- 評価基準は明記されていない。

② 専門分野に関連したコース fachbezogene Kurse

- 文学、哲学、経済、ジャーナリズム分野の文章の読解に必要な専門知識(文法・語彙も含める)のコース。
- 評価基準は明記されていない。

B. その他の外国語

ドイツ語以外の外国語は「継続教育センター」(Zentrum für Weiterbildung)で開講されている。英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、スウェーデン語、日本語、中国語、トルコ語、アラビア語が開講され、学期中に開講されるコース(Semesterbegleitende

Kurse) と学期休暇中の集中コース (Ferienintensivkurse) の両方がある。片方しか提供されていない言語もある。

CEFR グレードは、各講座の難易度目安表示として使われている。成績評価基準に関する記述はほとんどない。履修に関してはプレースメントや事前の面接等もあるが、特に条件を設けていないコースもある。

なお、特にイタリア語とスペイン語については、一部がロマンス系言語研究室 (Institut für Romanische Sprachen) との協働で開講されているが、ここでは「期末筆記試験あり。受ければ A2 の証明となる」などの評価基準が明示されている。

凡例：○ (CEFR 基準)

CEFR	A1	A2	B1	B2	C1	C2	その他
ドイツ語	独自基準						
英語	-	-	○	○	○	-	○
フランス語	○	○	○	-	-	-	○
イタリア語	○	○	○	-	-	-	○
スペイン語	○	○	○	-	-	-	○
ポルトガル語	○	-	-	-	-	-	-
ロシア語	○	○	○	-	-	-	-
スウェーデン語	○	-	-	-	-	-	-
日本語	○	-	-	-	-	-	-
中国語	○	-	-	-	-	-	-
トルコ語	○	-	-	-	-	-	-
アラビア語	○	-	-	-	-	-	-

4. レベル分けテストにおける C-Test の利用

2011 年 3 月に訪れた二つの大学 (エアランゲン大学とハノーファー大学) の言語教育センターでは、プレースメントテストにどちらも C-Test を利用している (あるいは導入を検討している)。上述のように、C-Test では語彙的知識、文法的知識および談話理解力などが総動員されることにより、さまざまな側面から言語能力が測定できる。以下に英語の C-Test のサンプルを挙げておく。

C-Test のサンプル (英語)

An American friend of ours hired a car in London although he was inexperienced in driving on the left-hand side of the road. Soon he found himself going in the wrong direction round a roundabout. He braked sharply, slid sideways, and ended up with both front wheels on the pavement. Battered and shaken, he was almost relieved when a policeman came over to help him. As a huge bobby leaned in at the open window our friend waited for the angry scold. But the policeman surprised him. "We seldom see anyone do that, sir," he said.

<http://www.c-test.de/deutsch/index.php?lang=de&content=beispiele§ion=c-test>

5. おわりに

2011年3月の現地調査では2つの言語教育センターで計10名弱のドイツ語教育担当者と面談できたが、CEFRについては、時代の流れから一応準拠はするが、諸手を挙げて賛成するという立場の人はあまりいなかった。利用（せざるを得ない）は多いようだが、実際には戸惑いもあるようである。ちなみに、ドイツ語学文学振興会のドイツ語技能検定試験はCEFRとは別の独自の基準で級を設定している。とはいえ、到達すべきレベルについて共通認識を持つことが不可欠であることは間違いない。特に、大学に特化したUNICertは今後さらに調査する価値があると思われる。

レベル分けにはC-Testテストを使うのが主流のようだ。もちろんコース終了時の達成度測定にも利用できるであろう。日本の大学におけるドイツ語入試でも、厳密な問題作成基準に従うものではないが、広義のC-Testを採用しているところもある。総合的な語学能力を測定できるので、今後はさらに多くの場面で利用するべきだと思われる。

<関連サイト一覧>

エアランゲン大学言語教育センター：<http://www.sz.uni-erlangen.de/>

ハノーファー大学専門語教育センター：<http://www.fsz.uni-hannover.de/>

フランクフルト大学国際学業センター：<http://www.uni-frankfurt.de/international/stk/index.html>

フランクフルト大学継続教育センター：<http://www.uni-frankfurt.de/studium/adressen/adr-zwb.html>